

第4回カンファレンス開催レポート

日時：2019年9月25日（水）16:30～20:00
場所：福井新聞社 風の森ホール
参加者：報道関係者、経営者、学生 約100名

**幸福度・共働き率・人口10万人あたりの社長輩出率全国1位、女性活躍、教育充実
地方創生モデルともいわれる福井で議論する令和のリーダーシップ**

中小企業の採用・後継者育成を応援するカンファレンス全国ツアー 地方開催 第3弾

ちさんちさい
地産地採

「Charming Chairman's Club TOUR 2019 in 福井」
(チャーミング・チェアマンズ・クラブ・ツアー)
～令和の愛されるリーダーとは～

主催：  **社長チップス** メディアパートナー： **Forbes JAPAN** エリアパートナー：  **福井新聞社**

おやつエンタテインメント製造会社、株式会社ESSPRIDE（所在地：東京都渋谷区、代表取締役CEO：西川 世一）は、「Forbes JAPAN」（リンクタイズ株式会社、取締役社長：角田勇太郎）をメディアパートナー、福井新聞社（本社所在地：福井県福井市、代表取締役社長：吉田真士）を福井のエリアパートナーに迎え、2019年9月25日（水）、全国各地で行う社長と学生のカンファレンス「Charming Chairman's Club TOUR 2019（チャーミング・チェアマンズ・クラブ・ツアー2019）」を福井で開催しました。

カンファレンスでは「令和の愛されるリーダーとは」をテーマにトークセッションが行われ、福井でリーダーシップを促進する方法や福井の産業を次世代に引き継いでいくためのアプローチなどについて議論しました。福井は共働き率が全国1位で働く女性も多く、教育面においてもトップクラスの初等教育レベルを保つことで優秀な人材が多いといわれています。しかしながら多くが県外へ進学、就職時も県内へ戻ってこないという課題を抱えたなか、今後どのように学生と向き合っていくべきかについても大変興味深いお話を聞くことができました。また「福井モデル - 未来は地方から始まる」（文春文庫）の著者、Forbes JAPAN 編集長 藤吉雅春氏も登壇。福井の未来について様々な意見が交わされたカンファレンスの詳細をご報告します。



■ Charming Chairman's Club TOUR 2019 とは

全国の中小企業の採用ブランディングや後継者育成に効果的な発信を社長に呼びかけ、社長の学び、ビジネスマッチング、学生との交流の機会を創出したいとの強い思いのもと「社長チップス」が企画しました。

カンファレンスとして社長や学生が参加、各地域の社長によるプレゼンテーション、「令和の愛されるリーダーとは」をテーマに掲げ時代を牽引するリーダーによる講演やトークセッション、懇親会などの内容で行い、7月に開催した東京・銀座のカンファレンスを皮切りに、福岡、仙台と続き、今回福井の後も年内に大阪、名古屋、札幌、広島、埼玉、沖縄、徳島、そして最後のファイナルを東京で展開。地域で活躍する社長を学生と繋ぎ、その地域で育ち学んだ地域に縁ある学生の積極的な採用「地産地採(ちさんちさい)」を応援します。またメディアパートナーとして Forbes JAPAN を迎え、誌面掲載などを通して広くアプローチするとともに、エリアパートナーとして各地の新聞社を迎え、若い世代と社長同士の交流を促進することで地域活性化の実現を目指します。

■ Charming Chairman's Club TOUR 2019 in 福井 開催レポート

日時：2019年9月25日（水）16:30～20:00
場所：福井新聞社 風の森ホール（福井県福井市大和田町 2-801）
参加者：報道関係者、経営者、学生 約100名

■主催者挨拶



株式会社 ESSPRIDE 代表取締役 CEO 西川世一

「僕たちは『Charming Chairman's Club TOUR』と題し、全国を回りながら魅力的な経営者を発掘、今回は福井を訪れ、より多くの人に知っていただく取り組みを行っています。この TOUR をはじめた経緯をお話しますと、僕は会社を設立して 15 期目ですが、元々は父のダンボール紙器の会社の跡継ぎから始まりました。当時は現在のような事業を展開しているわけではなく、社員が 1~2 名、パートが 3~4 名の小規模な会社。優秀な若者は集まらないし、このまま経営していてもほとんどの人に知ってもらえないのではないかと感じていました。その時のもどかしい気持ちから、全国の中小企業の社長自身が熱い想いを届けられるサービスを生み出し貢献したい！と考えたのが『社長チップス』です。全国には多くの人に紹介したい素晴らしい会社、面白い会社があるのに、若者は知るチャンスがありません。僕たちはこのプロジェクトを通じて未来を創っていく若者に、魅力溢れる経営者をどんどん紹介したいと思っています。様々な地域で後継者不足による黒字廃業がたくさんある中で、このカンファレンス TOUR を通して、社長と若い世代を繋げ、より多くの会社とその社長の声を多くの学生に伝え、少しでも課題解決に繋がるよう取り組んでいきたいと考えております。」

■エリアパートナー挨拶



株式会社福井新聞社 新規事業開発室長 林明美氏

「私のいる福井新聞社新規事業開発室は『福井の活性化に寄与したい』という想いで事業を創っている部署です。福井の活性化のためには人や情報をつなげていくシステムをデザインしていく必要性を強く感じており、いろいろな方からヒアリングし情報収集している中で、ESSPRIDE の西川社長と出会いました。『社長チップス』というお菓子のコミュニケーションツールを使って中小企業の経営者を応援する姿勢や、Charming Chairman's Club TOUR で地方を応援したい、人を繋いでいきたいという想いに我々も共感しまして、エリアパートナーとして本日の開催に至りました。『福井モデル 未来は地方から始まる』の著者であり福井の経営者や学生の皆様はよくご存じの Forbes JAPAN の藤吉様も本日ご登壇いただけることになりました。一つの繋がりから新しい繋がりがどんどん増えて、本日も盛大に開催することができました。人の繋がりは本当に大切なものだとな身に染みて感じており、人や情報を繋いでいくこの取り組みを応援していきたいと思っています。本日お集まりいただきました経営者の皆様、学生の皆様と関係がより深まり、今後一緒に福井の活性化に繋げていければいいなと願っております。」

■応援メッセージ



株式会社ダイヤモンド社 経営情報編集局出版編集部 編集長 花岡則夫氏

「ダイヤモンド社は 100 年以上の歴史ある経済ビジネス出版社です。トヨタや松下電工などが創業するかしないかという時代から日本企業を応援してきました。その精神は今も変わらず、7 月に西川社長の書籍『ESSENTIAL INNOVATOR』、全国の社長さんたちの熱い想いを綴った一冊を出版させていただきました。現在の一極集中の中で、地方が活性化しないと日本の経済はダメになると思います。地方活性化のため、全国で一生懸命頑張っている社長さんたちを応援することがダイヤモンド社の使命だと強く感じています。そういったことから西川社長が福井で社長と学生のカンファレンスを行うということで、本日駆け付けさせていただきました。学生の皆さん、大企業や有名企業もいいですが、一生懸命な社長さんのブレない想いでやっている企業というのは、絶対面白いと思います。発展すると思います。やりがいがあると思います。ですから、そういう考えを持って皆さんの話を聞き、交流してください。ダイヤモンド社はこれからも全国の社長さんを応援していきたいと思っています。」

<Message>



Forbes JAPAN 編集長 藤吉雅春氏

「2015 年に『福井モデル 未来は地方から始まる』という本を出したら、現在ほど地方創生という考えが広まっていない当時でも話題になりました。特に 2016 年に韓国版が出ると、市民参加型のニュースサイト『オーマイニュース』の書評委員が選ぶ 2016 年の本の第 1 位になったり、教科書に採用されたりしたことで非常に話題になり、韓国から福井県や富山県を訪れる人が増えました。私自身もよく講演などと呼ばれます。なぜこんなに韓国で話題になっているかというと、中央と地方の格差が日本の比ではないくらい激しいのです。それで日本から学びヒントを得ようと、市民の方や行政の人たちの日本視察が増えています。」

福井は幸福度ランキング 1 位、共働き率 1 位、正社員比率も常にトップクラス、小中学校の学力テストもだいたい 3 位以内と、様々なランキングで上位に入っていて、さらに「人口 10 万人あたりの社長輩出率」も 1 位です。これは家内制手工業のような中小企業が多いこともありますが、なぜ福井はこんなに 1 位が多いんだろうと思ったのが、この本を書いたきっかけでした。福井県の人たちと話す『なぜ自分たちの県が幸福度ランキング 1 位なのか分からない』って言われるんですが、今日はそれをみんなで考えてみたいと思っています。」

要因の 1 つとして考えられるのは、福井はダブルインカムの家が多いですが、それを、家庭、行政、企業がうまく循環して支える仕組みがあるということ。個人や団体の垣根を越えて連携する関係性が強いということがあります。」

もう 1 つは現在様々な製品のシェア 1 位も多い福井では、ビジネスの『協業』の仕組みが早くからできていたのではということ。鯖江市名産の眼鏡を例にとると、眼鏡の製造工程は 200 以上あり、連携することが不可欠です。環境がどんどん激変し、企業が 1 社では、あるいは地域単独では生き残るのが難しくなっている現代では、その対策として『協業』、組み合わせで面白いビジネスを生み出すということがありますが、福井では現代で言うコラボレーションやインキュベーションが実は昔から仕組み化されて行われていたのではと考えています。アメリカでは最近『エコノミック・ガーデニング』といって、人と人、行政と企業など、様々な関係性で若い企業を育てようという取り組みをしていますが、福井では 100 年前からすでにやっていたのです。個々の役割と出番が明確化されていて、立場や好き嫌いなど関係なくつながりが太いということがコラボレーションを創り上げる福井のアドバンテージだと思います。」

<Talk Session>

1部

テーマ「世界に誇る技術、産業を次世代へ引き継ぐためには」

登壇者：ユニバーサルエージェント株式会社（福井） 代表取締役社長 若泉統一郎 氏
ジャパンポリマーク株式会社（福井） 代表取締役社長 久保浩章 氏
スタイル・オブ・ジャパン株式会社（福井） 代表取締役/CEO 大森一生 氏
Forbes JAPAN 編集長 藤吉雅春 氏（ナビゲーター）



和食器、熱転写ラベル、若狭塗箸と、福井独自の技術・産業を担う社長 3 名に次世代に引き継ぐための取り組みや大切にしている想いをお聞きしました。



ユニバーサルエージェント株式会社（福井） 代表取締役社長 若泉統一郎 氏

「大学 1 年生からベンチャー企業に興味を持っていましたが、アイデアがないままに大学院までの 6 年が過ぎてしまいました。とりえず大手と言われる会社に入りましたが、30 歳を前にやはり起業の夢を実現したく、独立しました。福井で起業したのは地元愛もありましたし、福井県はものづくりにおいて分業制が盛んでポテンシャルが非常に高いので、この福井の生産力と私が会社員時代に築いた国内外の販売ルートを融合させたら面白いことができると思ったからです。弊社は和食器の製造、OEM 生産などを行っています。次世代にうつけるデザインのものづくりに力を入れていますが、次世代に引き継ぐという点で気をつけていることが 2 つあります。1 つ目は『マーケットイン型の OEM』。弊社はお客様と対話しながらモノを作っていくのが得意です。お客様の要望は『こんなのが欲しい』という“言葉”だけで“形”がありません。今は 3D プリンターで 2〜3 日で形をお出しできますからそこから話を進めていく『対話型の開発』を大切にしています。2 つ目は『グローバルシェア』の視点。和食に関わる業界なので日本の人口減が直撃しています。ですので積極的に海外展開をしており、中国、ベトナム、アメリカなど様々な国とタイアップして生産を行っています。毎月現地へ行くときには必ず弊社の若い社員を連れて行きます。知見・経験を深めてグローバルシェアの視点を持ってもらうことで、今後国内でも面白いものを作っていけると考えています。

福井も労働人口が減っている中、若い世代に伝えていくには、『面白そうだな』と思ってもらう必要があると思います。伝統産業なのでいかに現代的な形にもっていくかが課題ですね。私は『遊び心』をテーマにいろんな産業と提携したり異業種と協業したりして面白い商品を作っていきたい。そういうことで若い世代が興味を持ってくれると思っています。」



ジャパンポリマーク株式会社（福井） 代表取締役社長 久保浩章 氏

「私は現在の会社にアルバイトで入り、そのまま勤めて代表になりました。愛知の大学に進学しましたが福井で働こうと思っていたので、4 年次は福井から大学に通って、地元でアルバイトをしながら企業を知って就職活動をしよう。会社が設立間もなく、めちゃくちゃ忙しい状態だったので就職活動ができないうら働きました。でもいろんなことを経験できてやりがいがある。当時、会社の幹部が奈良、山形、和歌山、大阪とみんな県外出身者で、他の地域の方が福井で事業をしている中で自分は福井の人間として頑張らなければ！と思っていました。そういう気持ちで打ち込めたことが業績につながり、今に至ります。家業ではない社長なので、創業時から会社にいる者としての想いと、自分の代で新しい商品・マーケットを作って可能性を拓き、次の世代にバトンタッチする『繋ぎ』の役目に徹しようと思ってやっています。今ではサッカー日本代表のユニフォームに弊社の熱転写ラベルの技術が採用されたりしていますが、最初はメーカーのドイツ本社に何度も売り込みに行ってもその度に断られました。海外では『キャパシティ』、つまり生産能力をすごく問われました。いつかグローバルでジャパンポリマークの製品を販売したい！と思って取り組んできましたが、今は、もう一度日本国内で製品や技術をもっと練り上げて、海外から買いに来てもらうくらいメーカーにならなければと思っています。学生さんにも福井に残ってほしいなと思ってリクルートをしています。福井にはいい会社がいっぱいあるので、もっと見てほしい。同業他社で競争した結果、日本一になって、アジア 1 位を目指すとか、そういうことが中小企業ではできるんです。リクルートでは私が合同説明会も全部出て、学生さんと夢を語ります。学生さんには自由に会社に遊びに来て、知ってもらいたいと思って取り組んでいて、地元の学生さんが定期的に来てくれるようになりました。コーヒーを飲みに来たり。そうやってフランクに入ってきて、製造業って面白い！と思ってくれた人には私のネットワークでマッチする会社を紹介したりもしています。学生さんがもっと企業を知って、もっと興味を持てるようにサポートしていきたいと思っています。」



スタイル・オブ・ジャパン株式会社（福井） 代表取締役/CEO 大森一生 氏

「私もベンチャーブームの世代だったのと、我が家の家訓のようなもので『一代一業』というのがあったので『何かしたいし、何かしないといけない』とは思っていました。たまたま、やろうと決心したのがニューヨークに留学していた時だったので、ここでやってみようかなというノリでニューヨークで若狭塗箸の会社を作りました。現在【“HASHI”文化を世界に発信する】をビジョンにしていますが、箸というモノはともかく、箸を使う文化や様式を海外に広げるのは楽ではありません。需要がないですから。海外では箸、チョップスティックといえば竹の使い捨ての割り箸がスタンダードです。でも若狭塗箸は 400 年もの歴史があります。なぜそれだけ続いてきたかというと、和食文化が発展を遂げてきたからです。和食文化が発展し、洗練されていく中で、道具も洗練されていくわけで、時代に合った革新が生まれています。私は『モノ』という具体的な需要の部分ではなく、共有したいと思えるヒストリーやストーリーといった『コト』を作って伝えていくことで、和食文化と一緒に我々も現代的に発展していけると考えています。それが結果的にブランディングにもつながっています。ストーリーを伝えるとは、例えば箸ばっかり 400 年も作り続けていると、そもそも箸の使い勝手の良さとか、美しさとか、漆には抗菌効果があるとか、そういうことを当たり前だと思っているんです。でも世界の人からしたら、当たり前じゃなくてすごいんだっていう、そういったことを見つめ直して整理して、伝えていくということです。

学生さんや若い世代に対してどう伝えて、働きかけていくかということでは、1 つには、実際のビジネスを見て感じてもらう

ということをやっています。うちの地域の若狭塗箸の関連企業の構想試案に美術工芸系の学生インターンに入ってもらって、分業制でやっている製造工程の全部を体験してもらって。産地の見える化という点でも業界とのタッチポイントになっています。私の考えでは、若狭塗箸は伝統工芸という分類にはなりますが、『伝統』とつくとなんでも売れないんです。なので『伝統』という言葉は一度忘れて『工芸』なんだと捉えてもらう。そうすると『伝統』に縛られず、アイデアが柔軟になる。現代的な工芸として取り組んでもらうということをやっています。というも、若い時ってお金がなくてつらいですね。ちゃんと稼げる産業だし、君たちにはチャンスがあるということを伝えたいんです。

もう1つは『情熱を持って接する』ということが大事だと思います。私はどちらかというと暑苦しい人間で、人間同士が世の中を変えられる、人間がすることで良くも悪くもなると考えています。若狭塗箸というコンテンツを通じて、この世の中を変えたいという想いでやっています。」

<Talk Session>

2部

テーマ「学生が語る、求めるリーダー像」

登壇者：福井大学 工学部 電気電子情報工学科 4年 小澤直人さん

国立福井工業高等専門学校 2年 野村弘樹さん

大阪大学 医学部 医学科 6年 薬王俊成さん

Forbes JAPAN 編集長 藤吉雅春 氏 (ナビゲーター)



大学生として学生団体やプロジェクトリーダーを務める皆さんに、どんな社長や企業に魅力を感じるか、若い力を必要としている社長が優秀な学生にアプローチするにはどんな働きかけや姿勢が求められているのか語っていただきました。



福井大学 工学部 電気電子情報工学科 4年 小澤直人さん (学生団体 with 情報統括)

「学生団体は学生の集まりではあるけれど企業の方たちと関わることがすごく刺激的です。自分もやってやる！と意欲が高まって、とてもやりがいを感じます。

その中で働きたいと思う企業という難しいですが、一緒に働きたいと思う社長という点では、社長さんがフレンドリーだと楽しそうだなと思います。社長ってお堅いイメージがあるので、それを壊してくれるような社長さんと働きたいです。最近の学生は YouTube が好きなので、そういうのを活用したアプローチが効果的なのではないかと思います。市長も YouTuber になる時代ですし、社長も YouTuber になってみてはいかがでしょうか？」



国立福井工業高等専門学校 2年 野村弘樹さん (学生団体 with 副代表)

「1週間や1ヶ月の長期で都心のベンチャー企業やIT企業にインターンに行っています。学生が思う社長のイメージって、堅いとか上から物を言うイメージだと思うのですが、僕がインターンさせていただいた企業では、社長がすごくフレンドリーな方で、会社の空気が柔らかく、社員の雰囲気も違いました。会議では社長も社員も全員が同じ立ち位置で意見交換をしていて、みんなの価値観をその場で共有しているので、会社の方針などもすり合わせできているんだと感じました。そういう経験から、フレンドリーであることが“いい社長”の一要素になると思っています。

僕は地元の福井の企業に就職します。働きたい企業とは、やはり会社において楽しそうかどうかポイントになると思います。企業の広告や周知という点では、若い世代は SNS をバンバン使います。企業や社長さんも SNS などの若者のツールをどう使えるかが重要なのではないかと思います。」



大阪大学 医学部 医学科 6年 薬王俊成さん (WAKAZO 代表)

「僕は企業だけではなく行政に提案をすることもあります。意外と学生の意見を聞いてくれるものだなと、いろいろ話してみても感じました。でももちろん、全員が話を聞いてくれるわけではありません。たくさんの社長にお会いして、学生の意見を聞いてくれる人や対等に意見交換ができる人はすごく魅力的だなと思います。

僕も学生団体の活動で全国のいろんな地域を回って来て、ほとんどの地域に学生のハブとなる人がいるんだなとわかりました。そういう人と繋がりができれば、企業に対してズバズバ言ってくれる学生に会えると思います。

学生が地元の企業に行こうと思うかどうかは、まず地元がいい企業があることを知って、次に実際行って見て、判断するんだと思います。なので、インターンを受け入れることはもちろん重要な接点になりますし、コーヒーを飲みに行けるような社長と学生の関係なんて、すごく素敵だなと思います。最初の『認知』というところでは大学や高校や高専にアプローチをする企業が多いと思いますが、学校の情報が届くので常に就職に関してアンテナを張っている層だけだと思うんです。もっと軽く、例えば『BBQ しますよ、是非学生来てください』くらいの軽いアプローチの方が、広く学生にリーチできるのではないかと思います。」

<Talk Session>

3部

テーマ「社長輩出率や女性活躍などから考察する福井のリーダーシップ優位性」

登壇者：株式会社ホリタ（福井） 代表取締役社長 堀田敏史 氏
株式会社みつばち（福井） 代表取締役社長 川崎由美子 氏
イクネス株式会社（福井） 代表取締役 平井康之 氏
Forbes JAPAN 編集長 藤吉雅春 氏（ナビゲーター）



若い社員が活躍する地元で愛される文房具店の社長、
パートを含め女性スタッフ8割で運営するベーカリーチェーンの女性社長、
福井企業のコンサルをする中で自身も地元の伝統工芸と次世代技術を融合したビジネスを始めた社長、
それぞれが考える福井ならではの強みと、若い世代や女性に活躍してもらうために重要なリーダーシップについてお聞きました。



株式会社ホリタ（福井） 代表取締役社長 堀田敏史 氏

「私は文房具というのはわくわくするものだと思っていて、社員にはうちの店は『田舎のディズニーランド』と言っています。小さい頃お金がなくても文房具屋さんに行って面白いものないかな〜って探して、休み時間中に自慢し合うといった思い出を誰しも持っていると思います。大人になると興味の対象が携帯電話、車、家、と変化しますが、小さい頃に形成されるモノへの愛着などに文房具は大きな役割を果たしていると思います。誰にでも愛されて、愛着のあるものを扱っているという意味で『田舎のディズニーランド』を目指しているんです。キャッチーなので、リクルートの際にわかりやすいし、うちは若い社員や女性社員も多いのですが『私も目指します、頑張ります！』となることが多いですね。

若い世代を惹きつけるために重要だと思うことは2つあって、1つは企業側の努力。中小企業ってこんなに夢があるよ、こういう想いで経営しているんだよ、ということが、学生やリクルートを受ける側に十分に伝わっていないと思います。僕はフランクな方なので、『話しに来いよ！いくらでも教えるよ！』という感じでやっています。大学生から直接電話で『話聞きたいです！』ってやって来ますよ。企業側からのアプローチがもっと積極的であっていいんじゃないかと思っています。学生サークルのスポンサーになって、そこの学生にアルバイトに来てもらって、という連携も始めています。

もう1つは、高校生や大学1年生などの早い段階でキャリア教育があるといいと思います。そういった教育がないから、若い人たちは悪気なく県外に憧れて悪気なく大手に憧れていくんですよ。早くから、福井にはこんな面白い中小企業があるんだよということを伝えていく機会が必要なんじゃないかなと思います。

僕は時代の先を読んで経営していくのがリーダーとしてのあるべき姿だと思っています。そして学生に対しても社員に対しても、こういう山を登ってこういう景色を見ようぜって未来を見せてあげて、旗振り役として一緒にやっていくのがこれからのリーダーなんじゃないかなと思います。」



株式会社みつばち（福井） 代表取締役社長 川崎由美子 氏

「社長になった当初は外部コンサルの助けを借りて中期経営計画などを作っていましたが、そこには私の想いが入っていませんでした。やっと自分の想いを伝えられるようになったのは、失敗して試行錯誤して苦労したからこそですね。

私が女性の多い会社で女性として社長になってやったことは『みんなの意見を聞く』ということです。『何がしたい？』『何ができない？』とみんなと膝を合わせて話すのが大事かと思っています。トップダウン式ではなく、現場の人たちと意見や知恵を出し合ってやっていく形を目指しています。

福井は共働き率日本一、女性活躍が進んでいる県と言われますが、福井の女性は働くのが当たり前と思っていますよね。独特のことなんだって、たぶん県民はあまりわかっていないと思いますね。もともと福井は繊維業が盛んで女性が働く場所がありました。そして保育施設が充実しているとか、同居率が高いとか、育児を助けてくれる人がいるとか、女性が働くための環境も整っています。それで福井では起業されている女性も多いのだと思います。

弊社はパート・アルバイトを含めて8割が女性、幹部社員も女性です。若い人の採用をあきらめたわけではありませんが、どんどん人口が減っている現実があって、その中でシルバー世代や女性のパートさんだけでできるお店の形はないかと考えています。生き残っていくために会社はどうするのか。ITによる効率化とか、いろんな可能性を考えながらやっています。」



イクネス株式会社（福井） 代表取締役 平井康之 氏

「今の若者はスマホネイティブ、40代以上の経営者はリアルビジネス志向。私は35歳でその間の世代なので、リアルとITを融合したビジネスができないかな？と思って、ロボットが万年筆を持って手紙を書くという事業を始めました。

私がWebコンサルや事業承継コンサルをする中で、都会の方はわりとITとかコンサルとかにずっと入っていきませんが、福井の方は見たことのないものに対してちょっと抵抗感があるんです。ロボット代筆の事業を始めたのも、そういうことがわかっていたので、まずは実業で実績を出して会社の信用を高めようと思ったからでした。

地方は若い人が流出していくばかりで未来がないとよく言われますが、若い人がいないなら年配の方と協力してビジネスを始められないか、畑や山が多いならそれをグリップに、伝統工芸があるならそれをグリップに事業を立ち上げられないか、と可能性を考えることが重要だと思います。例えば僕らはロボットが書く手紙の便せんに越前和紙を使っています。地方ならではの強みを生かしたビジネス展開は絶対にできると思うので、若い人に戻ってもらうためにも、地方の経営者はそういうことを考えていくべきじゃないかと思っています。

愛されるリーダーっていうのは、『熱量』のある経営者だと思います。能力が高いとか、洒落ているとかよりも、一番大事なのは経営者の熱量。それを学生に伝えられるかどうかかなと思います。」

■今後の Charming Chairman's Club TOUR 2019 開催スケジュール

- 【大阪】10月23日(水) 16:00~21:00 ラグナヴェールプレミア (大阪府大阪市北区梅田 3-1-3
大阪ステーションシティ ノースゲートビルディング 28階)
- 【名古屋】10月30日(水) 16:00~21:00 エルダンジュ名古屋駅店
(愛知県名古屋市中村区名駅南 4-1-3)
- 【札幌】11月8日(金) 16:00~21:00 さっぽろテレビ塔 すずらん・はまなすホール
(北海道札幌市中央区大通西一丁目)
- 【広島】11月22日(金) 16:00~21:00 いいオフィス広島 (広島県広島市中区東千田町 1-1-61
hitoto 広島ナレッジスクエア 1F)
- 【埼玉】11月29日(金) 16:00~21:00 ベルヴィ 大宮サンパレス/GLANZ「ダイアリー」
(埼玉県さいたま市大宮区仲町 1-123)
- 【沖縄】12月6日(金) 16:00~21:00 琉球新報ホール (沖縄県那覇市泉崎 1丁目 10番3号)
- 徳島、東京 final : 12月開催



※その他の詳細は Charming Chairman's Club TOUR 公式サイトにてお知らせさせていただきます。



<Charming Chairman's Club TOUR 2019 公式サイト>

<http://charming-chairmans-club.com/tour2019/>

Charming Chairman's Club TOUR 開催にあたり、経済産業省 大臣官房 商務・サービスグループ参事官 佐々木啓介氏から
激励のお言葉をいただきました。

<経済産業省 大臣官房 商務・サービスグループ参事官 佐々木啓介氏 激励のご祝辞>

(2019年7月23日開催、第1回 Charming Chairman's Club TOUR 2019 東京・銀座カンパレンスにて)



社長のみなさんは肌で感じていることと思いますが、日本経済と企業活動を取り巻く環境は日々ものすごいスピードで大きく変わっています。

現在は労働生産性向上が大きなテーマですが、アメリカでも日本でも、勢いのある新規上場企業と比べて既存上場企業の国全体の生産性向上への貢献が大きくなってきています。

つまり既存企業であっても従来のやり方や考え方にとらわれずに挑戦する気持があれば、まだまだ変化や成長ができるということです。例えばこれからの消費・経済を担う若者と意見を交わし、変化していくということは、企業経営者にとっては挑戦でもあるかもしれませんが重要なことです。

企業経営者の方々が発信し、傾聴し、「世の中を大きく変えるんだ!」という若者のハートを捕まえて、大きく成長していただく。これが、令和の時代の新しい成長モデルなのではないかと、私は確信しております。

Charming Chairman's Club の取り組みは本当に素晴らしく、これから TOUR として全国で地域に密着した取り組みを行っていくことも大変意義深いです。やはり地域が元気にならないと日本も元気にならない、日本が元気でないと世界も元気になりません。地域の元気な、Charming な CEO の方々にますますご活躍いただく、この取り組みを応援したいと思います。

■ Charming Chairman's Club (チャーミング・チェアマンズ・クラブ) とは

激動の日本経済を支える、数多くの中小企業。

そこには、必ず情熱に溢れた社長たちのストーリーがあります。

Charming Chairman's Club (CCC)は、全国 47 都道府県から魅力ある経営者を発掘し、

事業の功績や人柄を広く世に伝えるとともに、イベントなどを通して社長同士、社長と未来を担う学生とのインタラクティブなコミュニケーションの場を創出し、更なる飛躍を応援しています。

今年 4 月 10 日に初開催したアワード "Charming Chairman's Club CHAMPIONSHIP 2019" (チャーミング・チェアマンズ・クラブ・チャンピオンシップ 2019) では、全国の社長の中からチャーミングな社長 No.1 を大学生が選び、この社長と一緒に働きたいという観点で BEST100、FINALIST5、そして CHAMPION 社長が選出されました。

<<http://charming-chairmans-club.com/championship2019/>>

来年 2020 年 4 月 10 日(金) には第 2 回の CHAMPIONSHIP 開催が決定しています。



■主催「社長チップス」とは

「社長チップス」は、全国の社長が所属する社長プロダクションを目指しています。社長をカード付きポテトチップスにしたり、社長の人柄や人生が伝わる詳細な情報を WEB 掲載することにより社長のファンを増やす様々な取り組みを企画しています。

「社長」×「ポテトチップス」という異色の組み合わせから注目を集め、これまでに 500 以上のメディアに登場。発売開始から約 3 年で 350 名以上の社長が参画しています。

全国の社長を支援することによる地域経済活性化を目指し、社長や学生の交流会、イベントの開催、メディアコンテンツ制作など、社長のプレゼンテーションプラットフォームとしても様々なコンテンツを提供しています。

チップスの種類は 2016 年 4 月に発売した「汗と涙の CEO（塩）味」からはじまり、2019 年 2 月「激辛人生スパイ CEO（シーイーオー）味」、5 月「このインパクトがクセになる 柚子こ CEO（ゆずこしょう）味」と続き、9 月に「B.LEAGUE 9CLUB 社長チップス～バスケットにたい CEO 抱け（大志を抱け）味～」を発売しています。



社長チップス公式サイト <http://shacho-chips.com/>

■会社概要

社名 : 株式会社 ESSPRIDE (エスプライド)
所在地 : 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3 丁目 17-11
代表者 : 代表取締役 CEO 西川 世一
設立年月日 : 2005 年 4 月 25 日
資本金 : 77,500,000 円
事業内容 : おやつエンタテインメント製造業、社長プロダクション運営
HP : <http://esspride.com/>



●ESSPRIDE の事業「おやつエンタテインメント製造業」とは

「おやつエンタテインメント」とは、ESSPRIDE が世の中に発信している独自の概念。

まるで“おやつ”のように人々をハッピーにし、心を喜びで満たすエンタテインメントを様々な形で生み出していきます。

“おやつ”とは食べるお菓子ではなく、音楽やスポーツ、仕事、趣味、ちょっとした息抜きなどの際に心に躍動感や充実感を与えてくれるものすべて。

嬉しい、楽しい、ワクワクする、愛、幸せ、やすらぎ・・・

人々を惹きつけ互いに手を繋ぎたくなるような「おやつエンタテインメント」となる空間、商品、サービスなどを製造することで、ESSPRIDE は人と人、人と企業、学生と企業、企業と企業、そして企業と地域を繋げ、世の中に新しい価値を提供できるよう挑戦を続けていきます。